

## 国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

## 【実践者】

授業者氏名	阪井園子	学校名	神戸市立摩耶学校
教科（科目）・領域	総合的な学習の時間	対象学年（人数）	6年1組, 2組（59名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2018年 10月 ～ 12月（11時間）		

## 【実施概要】

1. 単元名(活動名)：摩耶っ子SDGsにチャレンジ～未来がよりよくあるために～					
2. 教科・領域との関連性：  総合的な学習の時間 「摩耶っ子SDGsにチャレンジ」	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加		
4. 単元の目標（評価基準を意識して設定）： <b>【知識及び技能】</b> ・SDGsについて知り、自分たちの課題とリンクさせる。 <b>【思考力、判断力、表現力等】</b> ・卒業に向けて、母校、地域、家庭に対する感謝や、中学校への希望や心構えを形や行動に表す。 <b>【学びに向かう力、人間性等】</b> ・身の回りから問題や課題を見つけ出し、友達と協力しながら、活動に取り組む。					
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	SDGsの17項目について知り、身近な問題と結び付け、行動を起こすことができる。			
	②思考力、判断力、表現力等	自分たちの問題や課題を、SDGsに結び付け、チーム名やキャッチフレーズに表すことで、世界で起こっていることを、ジブンゴトとして考える。			
	③学びに向かう力、人間性等	仲間と協力して、卒業に向けた、感謝や改善への行動や、未来へつなぐ具体策を考えることができる。			

<p>6. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)</p>	<p><b>【単元設定の理由と意義】</b></p> <p>日本で教育を受ける子供達にとって、世界で起きているグローバルイシューを実感することは、多くない。6月に「世界一大きな授業」を行ったときにも、SDGsを知っている児童はほとんどいなかった。</p> <p>自分の気付き(身近な問題・課題)をSDGsと結び付けることで、世界と自分との繋がりを感ずることができる。卒業に向けて、これまで学んできた学校や、育ててもらった家庭や地域への感謝の念をもつと共に、後輩たちへの願い、さらに改善していきたいことなどを考える機会とする。また、中学校に向けての不安や期待を、仲間と共に分かち合い、新たな一歩を踏み出す力とする。卒業という人生の節目にあたり、小学校生活6年間をしっかりと締めくくり、自信をもって、新たな一歩を踏み出すことができるようにしたい。</p> <p>仲間と協力し合って活動に取り組む経験が、将来、世界の問題を解決する道につながることを願う。自分たちの未来は自分たちが作ることを伝え、子供たちが、世界平和に少しでも貢献できる人になってほしいと願っている。</p> <p><b>【児童観】</b></p> <p>6月に行った「世界一大きな授業SDG4」では、学校に通えない子供たちに対して、「学校に行けるように先生の数を増やしてほしい。」「教育にもっとお金をかけてほしい」「学校に行くのが嫌だと思ったことがあるが、ぜいたくなことだ。」「私達もしっかり勉強して、解決する人になりたい。」などの感想の中に、「かわいそう。」という発言も聞かれた。世界の問題に、驚きや怒りなどの気持ちを味わわせることはできたものの、遠い国でのこととして、ジブンゴトとして考えることは、まだまだ難しい。</p> <p><b>【指導観】</b></p> <p>10月の国語科で、「未来がよりよくあるために」をテーマに意見文を書く単元がある。それぞれの考えをイメージマップに表し、グループでブレインストーミングを行う。国語科では、この後、それぞれの気になることにテーマを絞り、根拠となる資料を集め、意見文を書く。この学習で行った、イメージマップやブレインストーミング、意見文を総合的な学習の時間「摩耶っ子SDGsにチャレンジ」に結び付けていく。</p> <p>また、道徳科においても、「地球の時間、ヒトの時間」という題材があり、46億年の地球の歴史と人の営みを考える。更に、11月半ばの音楽会で「たったひとつの青い星」を合唱する児童にとって、地球や世界の人々について考えを深める場面を多く設定している。</p> <p>大きな行事を終え、卒業に対する意識が強くなるこの時期に、様々な教科と横断的に学習することで、自分たちの未来を見つめる良い機会になると思われる。SDGsという、世界の目標は、自分達の目標でもあることを、身近な問題、解決したいこと、気になること、頑張ってきたこと、頑張りたいことなど、自分への気付きに結び付けていくことで、ジブンゴト化したい。</p> <p>エンカウンター的な、あるいは演劇的な手法を用いることで、アクティブラーニングを大切に学習活動を工夫する。</p> <p>まず、自分たちの課題がSDGs 17項目の、どこにつながるのかを考えることで、自分と世界はつながっていることに気付かせる。また、それを分かち合うことで、友達への共感や発見を引き出し、グルーピングする。</p> <p>グループでは、まず、SDGsを意識したチーム名やキャッチフレーズを作る。何を、誰に、いつ、どこで、なぜ、どのように、という5W1Hを意識しながら、どんなアクションを起こすか相談する。「課題→アイデア→プラン」のシナリオを作り、アクションプランとする。</p> <p>摩耶っ子サミットⅠを開催し、グループごとに、アクションプランを宣言し、全体で分かち合い、アドバイスし合う。</p> <p>グループで協力して準備を行い、実践する。その際に、対象者へのアポイントメントがあれば、お願いする。</p> <p>摩耶っ子サミットⅡを開催する。実践したことを振り返り、グループごとに、新たな気付き、成果、次へつながる課題などをシナリオにし、発表する。自分たちの行動(アクション)が、世界を幸せに導く第一歩となることを伝え、自分たちへの自信を引き出す。</p>
--	--

7. 単元計画 (全11時間)			
時	ねらい	学習活動	資料など ※: JICA リソース 活用はここに記載
他教科で	国語や道徳の学習を通して、「よりよい未来」や「地球」について学習したことから、総合的な学習につなげる。解決したいこと、気になること、頑張ってきたこと、頑張りたいことなどを「自分たちの気付き」として出し合う。	国語科「未来がよりよくあるために」 ・ウェブマッピング 6年生も折り返し地点、後、卒業まで半年の今、これは解決しておきたいことはありませんか？または、後輩に伝えたいこと、中学校に向かての思い、不安でも期待でもいいよ。 道徳科「地球の時間、ヒトの時間」(6月の「世界一大きな授業」を話題に出し、SDGsを思い出せるようにする。)	ウェブマッピングワークシート
1、 本時	・「摩耶っ子SDGsにチャレンジ」について考えよう SDGsの17項目について学習 「自分たちの気付き」とSDGsを結び付ける	・SDGsって何だった？ 17項目について学習 自分の課題とSDGsを結び付ける	マララ・ユスフザイ 「私たちが目指す世界」 SDGs 17項目
2	SDGsを意識して、グループの名前やキャッチフレーズ(パワーワード)を決めよう。	・グループの名前やキャッチフレーズを決める グルーピングし、SDGsのどの項目についてチャレンジするのか、目的を明確にする。 例SDG4「we love べんきょう!」「分からないって言うといいよ。」「分からないことは恥じやない。」	ネーミング、キャッチフレーズワークシート
3 4	アクションプランを立てよう	・アクションプランを立てる。 5W1Hを意識しよう。 ・「宣言のシナリオ」を作る。	5W1Hワークシート シナリオ
5	摩耶っ子サミットIを開こう	アクションプランを宣言し、アドバイスし合う。	ループリック
6	準備をしよう	グループごとに準備を進める。 事前に、アポイントをお願いする必要があるかな？	グループに対応した資料や材料を用意する。
7、 8	アクションを起こそう	グループごとに実践する。(同時にはできないかもしれない。)	
9、 10	摩耶っ子サミットIIを開こう	成果と課題を振り返り、「報告のシナリオ」を作り、発表し合う。	シナリオ
11	未来につなげよう	SDGsに対する振り返りをし、次の一歩につなげる。	振り返りと写真を掲示物に仕上げる。

8. 本時の展開			
本時のねらい：SDGs について知り、「摩耶っ子 SDGs にチャレンジ」について考える。			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (5分)	1、「よりよい未来」についての「自分たちの気付き」とSDGsを結び付けよう。	・「世界一大きな授業」、国語や道徳などこれまで学んできたことを話題に出す。	SDGs 拡大コピー (プロジェクター)
	「摩耶っ子 SDGs にチャレンジ」について考えよう。		
展開 (20分)	2、SDGs 17 項目について知ろう。 マララさんが、「アイデアを考え」「自分にもできることアクション(行動)」を探そうと言っていましたね。それが、「摩耶っ子 SDGs にチャレンジ」。	・資料や動画を見て、SDGs 17 項目について知らせる。 ・SDGs の動画に合わせて、17 項目 1 つずつのプリントを掲示する。	動画「マララ・ユスフザイ」 動画「SDGs 17」 SDGs17 項目 (掲示用・グループワーク用)
	3、「自分たちの気付き」を、SDGs 17 に結び付け、「摩耶っ子 SDGs にチャレンジ」できることを考えよう。 (一斉→グループワーク) 一斉(まず例を挙げて考える) 台風…SDG13(3,11)→地球温暖化→CO2 削減 →電気をこまめに消すなど  グループワーク ・ゴミのポイ捨てをなくそう。 ・気持ちの良い「あいさつ」を広めよう。 ・ ・	・まず、今年話題になった台風を例に挙げ、みんなで考えることで、活動のイメージがわくようにする。 ・ウェブマッピングシートを元に「自分たちの気付き」をSDGsに繋げられるようにする。 ・気付き(問題とアイデアを色分け)を付箋に書いて項目毎に貼る。 ・発表したグループの項目を掲示する。	ウェブマッピングワークシート
まとめ (5分)	4、グループで考えた「摩耶っ子 SDGs にチャレンジ」を分かち合う。		書画カメラ

<p>9. 評価基準に基づく本時の評価（評価方法）</p> <p>【知識及び技能】・SDG sについて知り、自分たちの課題とリンクさせる。 (SDGs17 項目グループワーク用、ウェブマッピングワークシート)</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業に向けて、母校、地域、家庭に対する感謝や、中学校への希望や心構えを形や行動に表す。 (摩耶っ子サミットでの発言、アクションプラン、アクション、振り返りシート)</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りから問題や課題を見つけ出し、友達と協力しながら、活動に取り組む。 (アクションプラン、アクション、ワークシート)</li> </ul>
<p>10. 学習方法および外部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々が見つけた問題を元に、方向性が同じ約5名毎にグルーピングする。各クラス6グループ×2クラスで12グループ出来るが、同じテーマになっても良しとする。教師は担任2名と2~3名の協力者を求めたい。</li> <li>・計画段階と報告段階の2回、演劇的手法を取り入れる。シナリオを作り摩耶っ子サミットで発表することで、イメージがよりクリアに具体的になると思われる。また、作成過程において、全員参加が求められ、共同的な学習を行うことができる。</li> <li>・養護教諭、ペア学年の担任、委員会の担当教諭、その他の先生方に子供たちが直接アポイントメントを取り、アドバイスをいただいた。</li> </ul>
<p>11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季校内研修で、国際教育について「SDG s」をテーマに研修を行う。その際、指導案を提示し、先生方に共に考えて貰う。</li> <li>・授業前に指導案を配り、6年生が行っていることを知ってもらう。</li> <li>・子供たちが相談に行くと思われる先生方には、事前をお願いしておく。</li> </ul>

## 【自己評価】

<p>12. 苦勞した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グルーピングは、子供たちと相談しながら行った。予定とは異なり、1組では、2名のチームが6チームもでき、1クラスで10チームができてしまった。しかし、興味関心に基づいてグルーピングしたためモチベーションは高く、2名でも協力し合って、活動をすすめることができていた。</li> <li>・「準備」と「アクション」を明確に分けることができないチームがあった。子供たちの気持ちとしては、準備ができたらずぐにアクションを起こしたい。チームによる差に対応しなければならなかった。また、全てのチームが歩調を合わせてアクションを行う訳ではないので、結局担任が全て調整することとなった。他の先生方に担当して貰いにくかった。</li> </ul>
------------------	---

13. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDG s を身近な問題に引き寄せた後、実際に活動（アクション）が始まると SDG s から離れてくるような感じがした。「活動あって学び無し」にならないよう、常に SDG s を意識させることが必要だと思われる。</li> <li>・ちょうど理科で、パソコンを使う学習をした後だったためか、パソコンを使ってポスターや新聞、プレゼンテーション資料を作る児童が多かった。ICTの活用は、今の時代必要なことでもあるが、個人的には、もっとアナログで手作り感あふれるものも大切だと考える。</li> <li>・SDG s 17 項目間の繋がりについて考えることができなかった。</li> <li>・教師間の連携をもっと円滑に行いたい。</li> <li>・今回は期限もあり、2学期に行ったため、卒業を意識する点では弱かった。もしできれば、卒業前にパートⅡにチャレンジしてもよいかもかもしれない。</li> </ul>
14. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他教科（国語、道徳、音楽）との横断的な学習を行ったことで、テーマやめあてを持続し、様々な視点から取り組むことができた。</li> <li>・大人（教師や保護者）でも知らない人がいる「SDG s」に、非常に意欲的に取り組む姿が見られた。総合的な学習として、6年生が行うにふさわしい取組であると思う。</li> <li>・自らすすんで担当の先生とアポイントメントを取り、日程を相談したり、掲示物を貼る場所を下見したりするなど、自主的な姿がたくさん見られた。また、放送委員会に頼んで放送で伝える、栄養委員会の残食調べを参考に参考にする等、各委員会とのコラボレーションも見られた。子供たちがどんどん繋がっていくことを感じた。</li> </ul>
15. 学びの軌跡 （児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作文や卒業文集に SDG s について書く児童がいた。</li> <li>・休み時間にすすんで取り組む児童の姿が多々見られた。</li> <li>・自主性や協力性が高まった。</li> </ul>
16. 授業者による自由記述	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクションの様子や成果物を写真に撮っておき、掲示物として残すことで、保護者に見て貰う。</li> <li>・SDG s 17 項目は、カラフルでデザイン性があり、子供たちは興味を持っていた。また、世界の目標に取り組むということは、子供たちにやりがいと誇りを与えると考える。今回、このような場を与えてくださったことに、感謝の念でいっぱいである。</li> <li>・教師でも SDG s や ESD を知らない人がまだまだたくさんいる。これからも、この活動を広げていきたいと思う。</li> </ul>

## 参考資料：

## 6-1の取組例

SDGs	チーム名	キャッチフレーズ	アクションプラン	アクション
2	食べ物サイコ	食で生かされる命	残食0	校内の残食調べ 世界の取組 (プレゼンテーション) 調理師さんへの手紙
3	笑顔をふやそう	健康と幸せをみんなに!	インフルエンザ・風邪予防	風邪予防 ポスター 放送
4	Teachers	一からていねいに	1年生の勉強を手助け	ペアのクラスに朝学の時間に行って、個別支援。 テストを作るなど
6	Save the water	節約、節約!	ウォーターエイドにぼ金	ポスター 募金袋を作って配布
7	省エネGo!	こつこつ 節約!	電気のつけっぱなし注意	ドアに貼って貰えるようなキャラクターを作り、各クラスに配布
10	いじめなくし隊	ピースフル スクール	低学年に絵本の読み聞かせ	「わたしのいもうと」を朝学時間に読み聞かせに行く。
11	クリーンレンジャー	ゴミ0作戦	楽しいゴミ箱作成	アンケート型ゴミ箱(1週間毎に内容を変える) バスケット型ゴミ箱(ゴミ箱の上にネットを取り付ける)
12	チャレンジ3R	3Rを意識しよう	キャラクターを使ったポスター	低中高学年に応じて3Rのポスターを作り、階段に掲示
13	CO2減量隊	身近な緑を大切に!	CO2を減らすためのマンガ絵本、ぬり絵などを作成	低学年 ぬり絵 中学年 マンガ絵本 高学年 プレゼンテーション
15	ネイチャーガード	自然を守ろう!	低中高学年に応じて新聞作り	低中高、 <b>学年に応じて、自然の緑を守るための新聞</b> を作り、各クラスに配布